

平成29年2月20日

大阪市立デザイン教育研究所

平成28年度 学校関係者評価委員会

開催日時

平成29年2月20日（月）13:00～14:00（デ研展開催期間）

参加委員

大阪商工会議所 東支部事務局次長
大阪市立第二工芸高等学校長
大阪市立デザイン教育研究所後援会長
大阪市立デザイン教育研究所所長（高校入試業務のため欠席）
大阪市立デザイン教育研究所准教授（司会者）

学校関係者評価委員会 次第

1 研究所展覧会視察（司会者誘導）

13:00～13:30

2 会議

15:30～16:00（所長室へ移動）

議長選出

1号議案 今年度報告

（昨年度の卒業生は就職希望者が100%就職 今年度は現在81.3%内定）

◆全学年共通

昨年と同様に春秋冬の3期に研究所の展覧会を開催した。デザインの制作過程をわかりやすく説明できる資料作りを通じて学習の振り返りに注力した → 学習効果に成果・各期の展示にボリュームが分散し冬期の展示規模が縮小した

多数のプロジェクトで企画・計画・運営各段階の終了直前に振り返り資料作成を行った → 成果を直ちに数値化して企画・計画・運営の担当学生と共有した

地域貢献プロジェクトとして取り組んだインバウンド話題の商工会議所プロジ

エクト・海外研修でのRCAでの発表 → 学生全員が英語の必要性を実感

地域貢献プロジェクトを増やすことでインタビューを実践する機会を増やす
→ 就職活動と課題研究に成果

インクルーシブ教育を実践 → インクルーシブデザインに向けた展望を持た
た・同時にインクルーシブ教育のための人的資源の確保が問題となった

震災被災地への支援 → プロジェクトのイベントで震災被災地への募金を行
い売り上げ金とともに義援金とした

◆1年

学習状況

グラフィック力の低下 → プロジェクトの中でグラフィック指導・土曜授業
で自動車以外の選択者向けに専任による造形実習で補助・専任のオーバーワーク

1年前期終了時期に息切れする学生が出る → 前期プロジェクトの進行を3
か月遅らせ、ゆっくり指導・後半の後期春期に漸次密度を上げる・より1年に手
がかかり2年が手薄になる

◆2年

プロジェクト関連

細かなプロジェクトを増やし、マネジメントの立場で取り組む機会を増やす
→ 年間60近いプロジェクト数を抱えるため指導者が不足する傾向

マイナンバーの運用がプロジェクトの契約形態に影響 → 今後、プロジェク
トに関わる講師費は企業側と人件費ではなく業務委託費の形を取る

座学から逃げる傾向 → 英語は座学・プロジェクトを組み合わせ学習・来年
度は2年向け特別講義化する

2号議案 来年度の計画検討

来年度前期カリキュラム 計画の説明

座学から逃げる傾向 → 英語は座学・プロジェクトを組み合わせ学習を今年
度並みを維持する・来年度は2年向け特別講義化する教科を増やす

その他 次回会議予定 平成29年3月27日(月) 検討

その他